マテリアリティ（重要課題）の特定

古河機械金属グループは経営理念の具現化と社会課題の解決により一層尽力していくため、2013年に特定したCSR重点課題を見直しています。2022年11月開催の取締役会において、2021年12月に制定した「サステナビリティへの取り組みに関する基本方針」に基づく10項目のマテリアリティ（重要課題）を以下のように特定する決議をしました。

また、マテリアリティ（重要課題）への取り組みに関する目標等についても設定しています。設定した目標等について着実なPDCAを実践することで、「2025年ビジョン」にも明記している「CSVの視点を織り込んだ『マーケティング経営』による古河ブランドの価値向上」および「当社グループのCSR/ESG課題に配慮した事業運営の実践による企業価値の向上」を強力に推進し、社会および当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値向上の実現を目指します。

マテリアリティ（重要課題）特定の背景

当社グループでは、CSR推進組織を発足した2013年にCSR重点課題を特定し、それらについて目標を立て取り組んできました。しかしながら、近年、気候変動対策やSDGsへの取り組みが更に重要視されるようになってきています。当社グループとしても従来の課題認識を見直し、経営理念の具現化と社会課題の解決により一層尽力していくため、2021年12月1日付で「サステナビリティへの取り組みに関する基本方針」を定め、CSR推進体制からサステナビリティ推進体制へ改編しました。更に、従来のCSR重点課題を見直し、当社グループが優先的に取り組むサステナビリティのマテリアリティ（重要課題）を特定しました。

マテリアリティ（重要課題）特定のプロセス

Step 1 社会課題の抽出	Step 2 重要度の把握	Step 3 マテリアリティ（重要課題）特定
・中長期的な視点で、当社グループおよび様々なステークホルダーが重要と認識する課題を洗い出し。 【参考】GRIスタンダード、ISO26000、SDGsの指標・ターゲット、他社の動向等 ・50項目のマテリアリティ（重要課題）候補を抽出。	・抽出した50項目について、社内アンケートを実施。課題に対する重要度を評価。 ・結果の集計とスコアリングを実施。 ・社会的要請等に鑑みながら、10項目のマテリアリティ（重要課題）に集約。	・2022年10月開催の経営会議、2022年11月11日開催の臨時取締役会にてマテリアリティ（重要課題）の特定を決議。

古河機械金属グループ サステナビリティへの取り組みに関するマテリアリティ（重要課題）

攻め：CSV課題 事業を通じた「社会課題」の解決に関するマテリアリティ（重要課題）		関連する主なSDGs
	●環境に配慮した製品・技術・サービスの提供 ●お客さまの課題解決への貢献 ●インフラ整備など安全で快適な社会づくりへの貢献	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを
守り：CSR/ESG課題 成長に向けた経営基盤の整備に関するマテリアリティ（重要課題）		**関連する主なSDGs**
E：環境	●事業活動における気候変動対策の推進 ●生物多様性保全活動の推進	13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう
S：社会	●健康に配慮した安全で働きがいのある職場環境の整備 ●多様な人材の確保と育成 ●人権を尊重した経営の推進	4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 10 人や国の不平等をなくそう
G：企業統治	●全社的リスクマネジメント体制の整備 ●コンプライアンスの徹底	12 つくる責任 つかう責任 16 平和と公正をすべての人に

事業を通じた社会課題の解決

古河機械金属グループは「社会課題」の解決に役立つインフラ整備、製品・技術・サービスなどを提供することで、「企業価値」を創造すると同時に「社会価値」の創造に寄与していきます。SDGsの17の目標のうち、特に「11. 住み続けられるまちづくりを」と「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」への貢献を行うとともに、「古河機械金属グループの価値創造プロセス」(統合報告書2024 P9,P10参照)にて明示している「社会インフラ整備」、「安全で環境に優しい豊かな社会の実現」という「社会価値」の創造を実現していきます。

マテリアリティ(重要課題)		目標	取り組み	部門
攻め:CSV課題 **事業を通じた「社会課題」の解決に関するマテリアリティ(重要課題)**	**環境に配慮した製品・技術・サービスの提供**	お客さまのCO_2排出量削減および省エネルギー化・高効率化を実現する製品の提供	● CO_2排出量削減に貢献する密閉式吊下げ型コンベヤ(SICON®)の需要創出と販売促進 ● 高効率型スラリーポンプ(LK3)の投入	産業機械
			● 低燃費性能の油圧クローラドリルの販売 ● LCS(ライフサイクルサポート)による作業の効率化や負荷低減の提案	ロックドリル
			● 省エネルギー、低騒音のエコクレーンの販売 ● ミニ・クローラクレーンの高付加価値製品(バッテリー型・分解型等)の拡販 ● ユニッククレーンおよびユニックキャリアの車両電動化への対応	ユニック
			● 低燃費自動車等の省エネルギー製品支援のための材料(高純度金属ヒ素、結晶、コアコイル、窒化アルミセラミックス)の販売	電子
	お客さまの課題解決への貢献	ICT/AIの活用による自動化された機械製品の提供	● 無人化・省人化製品(全自動ドリルジャンボ、ロックボルト施工機等)の販売強化 ● 油圧クローラドリルのセミオートせん孔機の販売強化 ● DX活用によるサポートプログラム商品販売により、顧客の生産性向上	ロックドリル
			● 半導体部品の小型化、軽量化、高機能化に貢献する酸化銅の販売	化成品
	インフラ整備など安全で快適な社会づくりへの貢献	インフラ整備、老朽化対策のための製品の提供およびプロジェクトへの参画	● 鋼橋梁の安定受注と鉄構製品の拡販 ● 社会インフラ事業を中心に大型プロジェクトの受注拡大 ● 災害復旧のための骨材供給に貢献する破砕機の販売	産業機械
			● 解体市場向け大型、超大型油圧ブレーカの販売強化 ● 油圧圧砕機の小割機集中販売(道路ゼネコン、骨材リサイクル向け)	ロックドリル
			● ミニ・クローラクレーンのターゲット顧客(電力、ゼネコン等)を絞った新規市場開拓 ● 狭小地向け住宅建築用クレーンの発売	ユニック
			● 各種センサー、インフラ構築等のインフラ整備支援のための材料(高純度金属ヒ素、結晶、コアコイル、窒化アルミセラミックス、光学)の開発・販売	電子
			● 水環境保全製品の販売促進	化成品

成長に向けた経営基盤の整備

古河機械金属グループは、成長に向けた経営基盤の整備のため、以下のとおり「CSR/ESG課題に配慮した事業運営による企業価値の向上」に取り組んでいます。

マテリアリティ（重要課題）			目標
守り：CSR/ESG課題 成長に向けた経営基盤の整備に関するマテリアリティ（重要課題）	E：環境	事業活動における気候変動対策の推進	● CO_2排出量削減（スコープ1、スコープ2） 2025年度までにロードマップ策定、公表
			● 水資源使用量の削減 （2028年度BAU比※削減率：▲2%） ※BAU（Business As Usual）：何も対策を講じなかった場合
			● 廃棄物等総排出量の削減 （2028年度BAU比※削減率：▲3%）
		生物多様性保全活動の推進	● 継続的な山林管理の推進
			● 社有地、鉱山跡地の生態系再生等の活動推進
			● 有害化学物質の削減 （有害化学物質使用削減率）
	S：社会	健康に配慮した安全で働きがいのある職場環境の整備（労働安全衛生）	● 無事故・無災害達成 （労働災害強度率・労働災害度数率）
		健康に配慮した安全で働きがいのある職場環境の整備（健康と働きがい）	● 健康経営優良法人ホワイト500認定 ● 健康診断有所見率 （2031年度　40歳未満：30%未満、40歳以上：50%未満）
		多様な人材の確保と育成（ダイバーシティ）	● 女性比率の向上 女性管理職比率（連結）：3% 企画職群の新卒採用者（国内採用の古河機械金属（株）社員）に占める女性の割合：20%
			● 経験者採用の拡充 管理社員層、企画職群の新規採用者に占める経験者採用の割合：40%
			● 障がい者雇用の拡充（法定雇用率達成）
			● 外国籍社員の雇用への積極的な取り組み
		多様な人材の確保と育成（人材育成）	● 人材の育成 年間研修実施時間：1,500時間 受講者数の拡充：3,600名
		人権を尊重した経営の推進	● 人権方針の制定および教育の推進
			● 調達先の人権リスク評価実施率の向上およびフォローアップ
	G：企業統治	全社的リスクマネジメント体制の整備	● 事業継続計画（BCP）の定期確認、事業継続マネジメント（BCM）の推進
			● リスク評価の実施と対応策の改善 高リスク項目の定期的見直し
			● サイバーセキュリティ体制の強化
		コンプライアンスの徹底	● コンプライアンス違反の防止機能向上

2023年度	
数値実績	主な取り組み
● 2023年度(連結ベース):26,037t-CO_2	● ロードマップを策定、公表(2024年7月30日)
● 2023年度 BAU 比削減率:▲12.7% ● 2023年度 BAU 比削減率:▲17.4%	● 各工場・各所の環境パフォーマンス改善を図るため、環境安全統括部内にて「環境保全データ月例報告会」を開催し、各所への指導を実施
—	● 山林管理のための森林組合との協議
—	● 足尾さくら植樹会、古河の森植樹会を開催 ● 久根、足尾地区におけるホタル再生活動を継続 ● 自然共生サイト(30by30アライアンスを含む)登録に向けた活動の実施
● 対前年度比:▲13.0%	● 各工場・各所の環境パフォーマンス改善を図るため、環境安全統括部内にて「環境保全データ月例報告会」を開催し、各所への指導を実施
● 労働災害強度率:1.58 ● 労働災害度数率:1.25	● 各工場・各所の事故再発防止を図るため部内にて「事故災害月例報告会」を開催し、各所への指導を実施 ● 労災事故再発防止策の協議
● 40歳未満:39.6%、40歳以上:61.5%	● 健康経営優良法人2024認定 ● 健康増進イベント、セミナー等の計画、実施、評価
● 女性管理職比率(連結):3.7% ● 企画職群の新卒採用者(国内採用の古河機械金属(株)籍社員)に占める女性の割合:6.7%	● 経験者採用において女性の採用強化 ● リクルーティングスキル強化
● 管理社員層、企画職群の新規採用者に占める経験者採用の割合:60%	● リファラル採用、ダイレクトリクルーティング
● 障がい者雇用率(連結):2.2%(法定雇用率2.3%)	● 障がい者雇用支援機関訪問 ● 各事業会社への雇用推進情報提供
● 外国籍社員1名雇用	● ダイレクトリクルーティング
● 年間研修実施時間:887時間 ● 受講者数:2,632名	● 階層別研修、技術者研修、現場管理者研修 ● 事業所企画研修・教育訓練
● 人権研修実施回数:6回	● 人権方針の制定 ● 人権リスクの特定(洗い出し・評価)
● 調達先の人権リスク評価(CSRアンケート)実施率:2023年度対2022年度0%増 ● 人権に係る調査・面談・研修会実施件数(企業数):2023年度対2022年度比3社増	● 2022年度に行ったCSRアンケートの結果分析と面談先の選定・面談を実施 ● CSRアンケートの英語版・中国語版・タイ語版作成 ● 海外現地法人における調達先アンケートの検討・計画
● BCPの定期確認:1回	● 古河機械金属グループBCPの改訂 ● グループBCP部会の開催(年2回)
● リスク対応策の改善(見直し):1回	● 対象事業所にヒアリング実施
● 標的型攻撃メール訓練実施回数:1回 ● 古河機械金属グループ役職員向けセキュリティ講習会:1回	● 「インシデント対応マニュアル」策定
● コンプライアンス研修実施回数:8回	● 新入社員ほか階層別(グループ責任者・役員向け含む)コンプライアンス研修の実施 ● 下請法等の個別の法律に関する研修の実施 ● 独占禁止法マニュアル(総論編)の改訂